

山城クラブのこと

山城3回 増田 駿

昭和二三年十月、再度の学制改革で私と山城高校との歴史がスタートした。当時の山城高校の正門は、下立売通から少し奥まった所であり、事務局のあった本館は洋風の二階建てであった。もともと、二三年三月時点で府立三中へ通学していた同僚は、四月から実施された第一次の改革で新制山城高校へ移行しており、その意味で山城高校の創立は二三年四月ということになる。

顧みると第二次世界大戦の終戦後の学制として「六・三・三制」が実施されることとなり、それまで旧制中学の三年に在学していた私たちは二三年四月から新制高校一年に移行し、私の場合は洛北高校生となり、鴨沂高校（府立第一高女から改名）の校舎を使って、一学期は洛北高校が午前中、鴨沂高校が午後のご二部授業をしていたのであるが、占領軍の教育担当であったケーズ氏の意向で十月に公立高校の再編成を行い、男女共学・区域

制が実施されることとなり、山城高校一年八組に着地した。そんな経験をしたのは新制高校一〜四期の卒業者に共通のことです。

ところで、高校生活は、旧制中学の伝統と個性が山城という器に集まり、新たな性格を生み出した二年半でしたが、中でもクラブ活動は殊のほか活発で、野球部の甲子園初出場、小森先生の指導を受けた籠球部の活躍、卒業後ヘルシンキオリンピック（一九五二）に出場した大石（現、山本）さんなど水泳部の活躍、土肥（旧姓、加藤）先生指導のもと毎日コンクールで西日本準優勝に輝いた混声合唱団など枚挙にいとまがない。

学窓を去って概そ二〇年後、今は故人となった本郷君、滋賀君などが核となって山城クラブ例会が発足した。昭和四八年四月河原町三条のアサヒビヤホールに二五人が集まり、当初は月一回のペースであったが、その後も連綿と回を重ね輪を広げて、〇三年には人間国宝に指定された早川君の祝賀も兼ねて第一一六回目の例会が開催された。齢七十代となったが、共々に健康に留意し年二回の例会に集い、杯を交わし校歌を歌い続けに行くのが楽しみである。

結びに、京三中・山城高校創立一〇〇年を心からお祝い申し上げます。